



AKITA Challenges

— 課題先進県を課題解決の先進地に —

目次

1. はじめに

秋田県を取り巻く状況 4

秋田県の目指す姿 5

2. 現状と課題

スタートアップの特徴 7

秋田県におけるスタートアップの現状 9

有識者の意見 11

秋田の強み 12

まとめ – 現状と今後の方向性 14

3. 取組の方向性

取組方針① 成長ステージに応じた支援 16

取組方針② パートナープラットフォームの構築・運営 19

4. ロードマップと10年後の姿

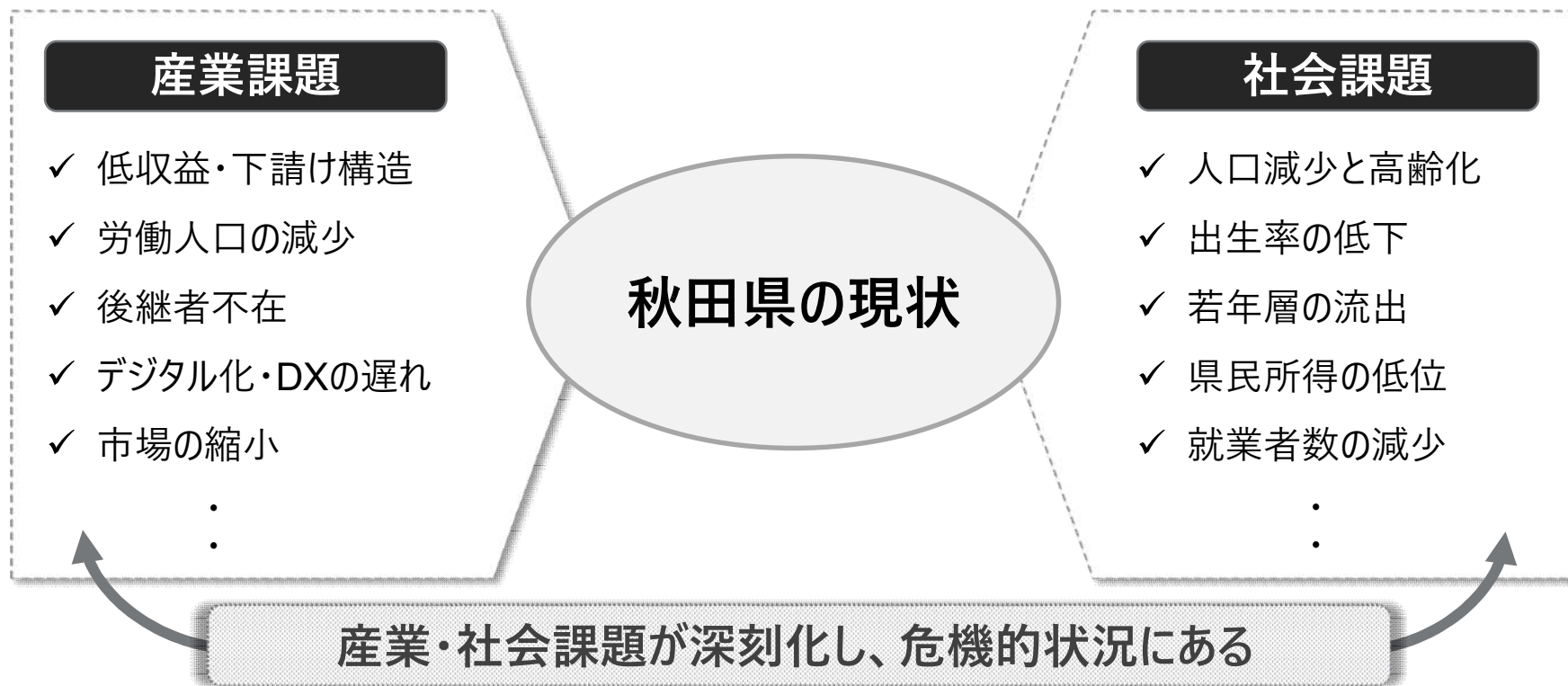
スタートアップエコシステムAKITA 【10年後の姿】 23

エコシステム形成に向けたアクションプラン 24

1. はじめに

秋田県を取り巻く状況

若者の県外流出、日本トップクラスの少子高齢化に伴う人口減少など社会課題の深刻化とともに、県内市場の縮小、労働人口の減少、後継者不足など県内産業の課題も深刻さが増している。



状況打開に向けて地域・経済に新たな原動力が必要

秋田県の目指す姿

山積する秋田の課題解決を起点に、スタートアップとともに、新しいビジネスの創出・拡大に果敢に挑戦し、大きく成長する道を切り開く。

AKITA Challenges

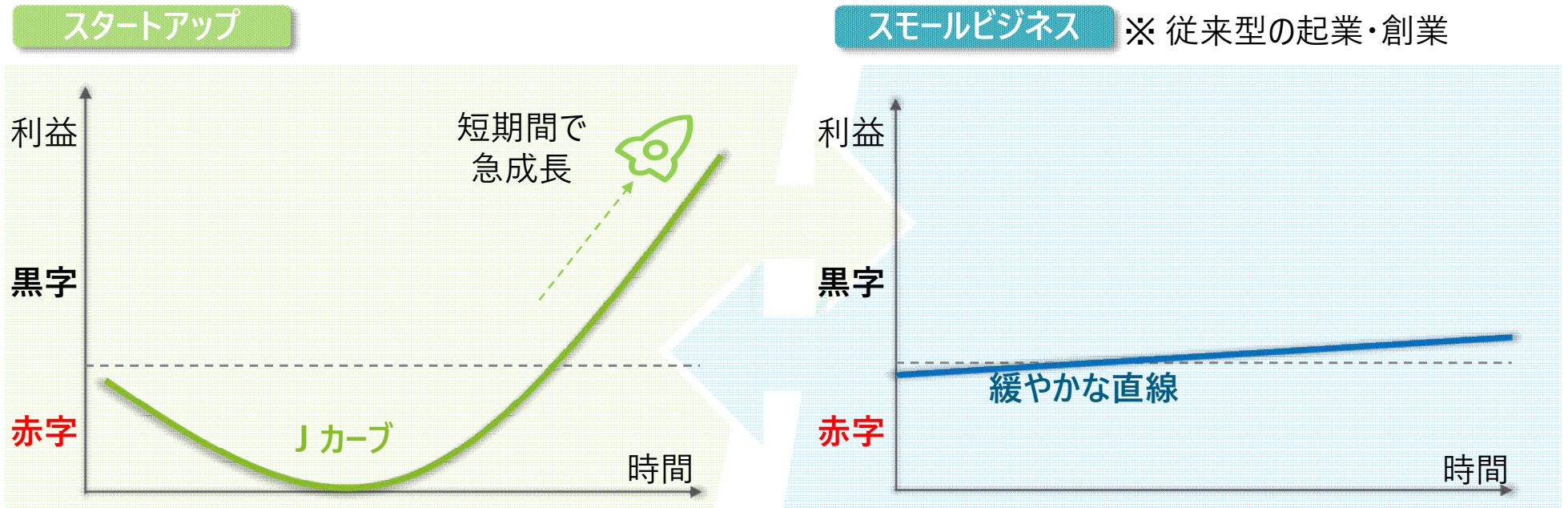
— 課題先進県を課題解決の先進地に —



2. 現状と課題

スタートアップの特徴

スタートアップは、これまでにないビジネスを創出してイノベーションをもたらし、短期間での急成長を目指す点で、従来型の起業・創業（スモールビジネス）とは根本的に異なる。



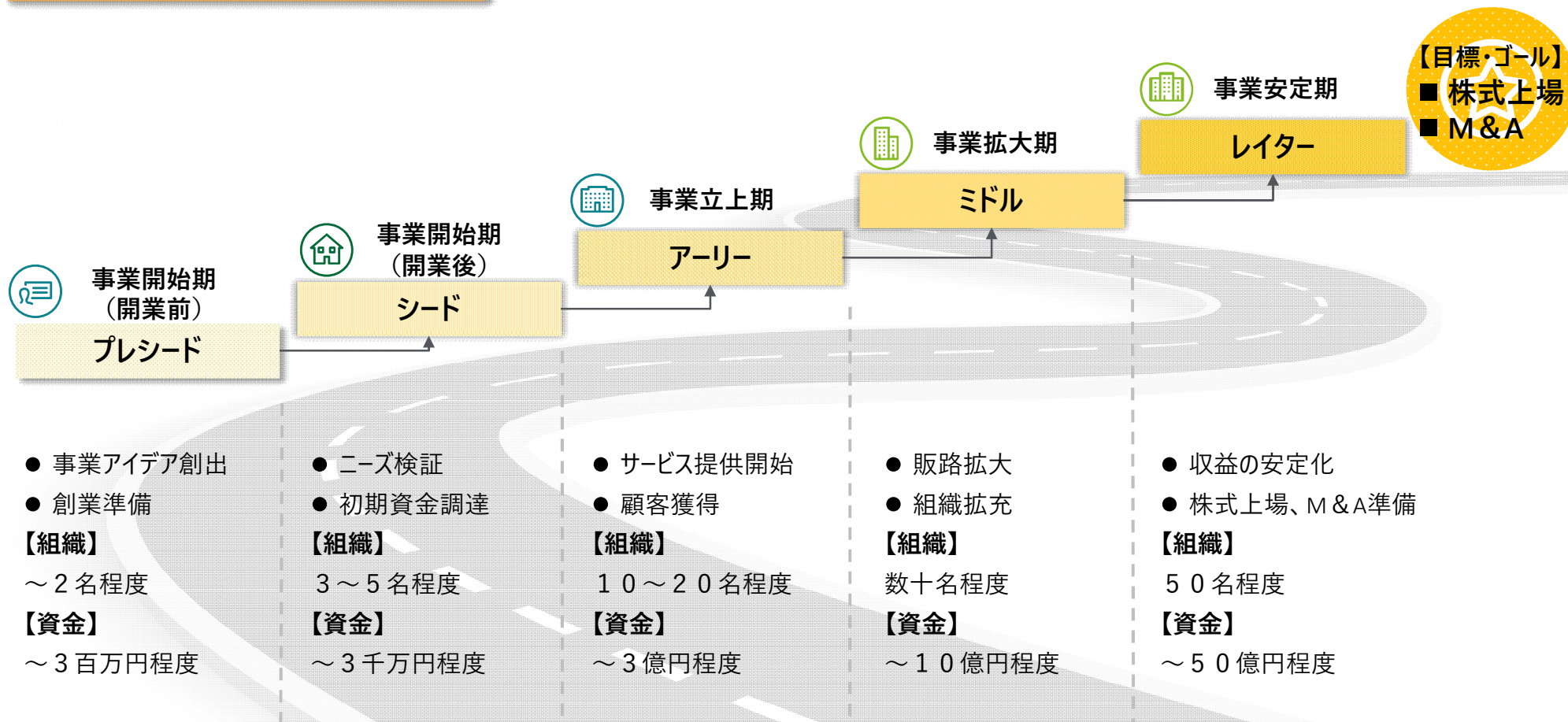
- 目指す市場が**大きく**、成長速度が**速く**、**大規模な資金調達**（ベンチャーキャピタルからの出資など）
- イノベーション創出により**新たな産業・市場を創出**（革新的な技術・アイデア、新しいビジネスモデル）
- 社会・地域課題解決により**社会へのインパクト**を創出

- 市場は地域内など**限定的**、**緩やかな事業速度**、**比較的少額な資金調達**（銀行融資等）
- **安定と持続性を重視**し着実な利益を目指す（既存のビジネスモデルで事業展開）
- **地域に密着**したサービス・商品を提供

スタートアップの特徴

スタートアップは、一般的に以下の成長ステージを経て、創業から10年以内で株式上場やM&Aに至ることを目標とする。

スタートアップの成長ステージ



秋田県におけるスタートアップの現状【課題・可能性】

スタートアップやスタートアップ候補者は少ないものの、地域課題解決に関心のある若年層や成長志向のスタートアップが存在している。また、先行して取り組んでいる県内外の支援者の動きが活発化している。

	スタートアップ候補者(学生等)	スタートアップ	支援者
課題	<p>スタートアップを志す者は少数</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 情報やロールモデルの不足 ◆ 資金・時間・場所の制約 ◆ 周囲の理解（寛容さ）の不足 ◆ 失敗（リスク）への不安 ◆ 身近な相談相手の不足 ◆ 仲間づくりの機会が限定的 	<p>少数かつ成長ステージに偏り</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ほとんどが事業開始期の段階 ◆ 成長ロールモデルの不在 ◆ 支援へのアクセスが限定的 ◆ 成長のためのスキル不足 ◆ 人材・資金調達等の情報不足 ◆ 知名度・信用力の低さ 	<p>支援リソース・ノウハウの不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ スタートアップ支援経験の不足 ◆ 専門性の高い支援者（V C等）の不足 ◆ 支援ニーズを把握できていない ◆ 旗振り役がない ◆ 支援施策の偏り、重複感 ◆ 連携支援の仕組みがない
可能性	<p>若年層の新たな動き</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 働き方としてスタートアップへの関心は以前よりも高まっている ◆ 地域に関わることで社会課題に関心を持ち行動する学生や移住者が一定数存在 <p>【事例】秋田県若者チャレンジ応援事業 若者の斬新なアイデアによる取組を支援する同事業では、学生を含む若者が地域課題解決やビジネス化に向けて取り組んでいる</p> 	<p>地域に根ざす成長志向の起業家</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 成長意欲の高い起業家が存在 ◆ 地域貢献を重視する起業家の存在（雇用、資源活用等） ◆ 移住起業者によるものが多く県内外にネットワーク形成 <p>【事例】EO North Japan 成長意欲の高い起業家・スタートアップが参画し、アクセラレーションプログラムやメンタリングにより更なる成長を目指している</p> 	<p>県内外の先行支援者の存在</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 先行して取組を行う県内の金融機関や大学等の教育機関の存在 ◆ 県外のスタートアップ拠点都市や民間等による県内支援の動き <p>【事例】AKITA STARTUP GARAGE 県内の大学・高専が連携し、V C等の協力を得て、学生向けのアイデア創出プログラムを実施している</p> 

秋田県におけるスタートアップの現状【支援ニーズ】

県内外の幅広いプレーヤーへのヒアリングで、以下のような支援ニーズを確認した。

<p>スタートアップ候補者 (学生等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 支援策やイベントなどのタイムリーな情報 ◆ アイデアを試せる機会(アイデアコンテストなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 信頼できる身近な相談相手やコミュニティにアクセスする機会・手段
<p>スタートアップ</p>	<p>< 県内スタートアップ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 個別相談へのワンストップ対応 ◆ 上場等の出口を意識した成長支援 ◆ 県全体の意識醸成 ◆ スタートアップへの理解促進 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 県内外支援者や連携先への接続 ◆ 県内自治体・地場企業の巻き込み ◆ 行政による情報発信・P R 支援
	<p>< 県外スタートアップ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 実証機会の提供（連携先のマッチング、実証フィールドの提供、費用補助など） ◆ 地域課題や地域資源を知る機会 ◆ 地域のキーマンとの出会い 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 最初の相談窓口の明確化 ◆ スタートアップを理解している人と地域を理解している人、両者による伴走支援 ◆ 行政による情報発信・P R 支援
<p>支援者</p>	<p>< 県内支援者（金融・教育・市町村等） ></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ スタートアップ支援のスキル・ノウハウ取得 ◆ 関係機関による情報交換の場 ◆ 既存支援機関の枠を超えた施策の展開 ◆ スタートアップの情報・機能を集約する窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地場企業や地域の課題解決に資する県外スタートアップへのアクセス機会、マッチング ◆ 県内における支援策の偏りや重複感の解消 ◆ 県全体の機運醸成、行政の旗振り
	<p>< 県外支援者（VC・企業・自治体等） ></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 県内スタートアップ情報の共有、現地視察 ◆ 県内関係者と意見交換できる場 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 県内関係者への橋渡し、連携支援の機会

有識者の意見

本県のスタートアップをとりまく状況を踏まえて、県内で先行してスタートアップ支援に取り組んでいる有識者から、以下のような意見があった。

< 支援対象 > 裾野を広げるため、各成長ステージに応じた支援を行うこと

- ◆ 若年層をターゲットとした起業家教育の充実や、学生の挑戦の後押しが必要
- ◆ 成長初期段階の県内スタートアップを集中支援し、早期にロールモデルを創出することが重要
- ◆ 実証支援を通じて県外スタートアップの誘致を促進

< 支援体制 > 多様な支援者と連携できる仕組みを整備すること

- ◆ スタートアップの幅広いニーズを受け止め、支援（ヒト・モノ・カネ）につなぐ最初の窓口が必要
- ◆ ワンストップサービスや交流機会を創出する拠点が必要
- ◆ 支援リソースの集まる首都圏等とのネットワーク構築を支援すべき
- ◆ スタートアップ支援のノウハウのある民間企業と連携すべき
- ◆ 支援者はスタートアップに提供できるリソースと支援マインドを持つ者であることが重要
- ◆ 各支援機関の窓口となる担当者を明確にし、機動力の高い支援体制とすること

< 秋田の強み > 「未利用資源」、「県内外の人財」を活かすこと

- ◆ 「課題先進県」であることを活かし、地域課題・実証フィールドをフックに県外スタートアップを呼び込める
- ◆ 資源・フィールドの価値やとらえ方を変えていく必要がある
- ◆ 県出身者等の秋田に縁があり、熱量高く応援してくれる人をエコシステムに巻き込むべき
- ◆ 地域のハブとなっている人と連携し、人脈を活かすべき

秋田の強み【未利用資源の存在】

県内には、未利用の地域資源や地域課題が数多く存在しており、それらを新たなビジネス資源ととらえ活用する動きが出てきている。

未利用資源の存在

地域課題

- ◆ スタートアップがビジネスとして解決できる課題が多数存在する
- ◆ 県内市町村・企業が県外スタートアップとの実証事業に取り組み始めている

【事例】県外スタートアップとの連携

北秋田市は、東京都のスタートアップコミュニティからの紹介を通じて、複数の県外スタートアップと連携協定を締結し、実証実験を実施している



豊富な自然・地域資源

- ◆ 地球規模の課題（エネルギー供給源、食料不足、地球温暖化等）にも通じる水・森林、農地、再生可能エネルギーなどの地域資源が豊富に存在する
- ◆ 伝統文化や地域産業、遊休不動産に着目した新たなビジネス展開の動きがある

【事例】秋田沖の洋上風力事業推進

秋田県沖は、風の強さや海底の地形が洋上風力発電の建設に適しており、大手企業が事業を推進している



【事例】地域資源を活用した街づくり

男鹿市に開業したクラフトサケ醸造所では、地域農産品を活用した酒づくりや、空き施設を活用した街づくりに取り組み、県内外から多様な人材を呼び込んでいる



秋田の地域資源や地域課題が、県内外スタートアップの事業の起点になりうる

秋田の強み【秋田への想いを共有する“人財”】

県内外に、秋田への想いを持って、秋田のために活動している「人財」が多く存在している。彼らの活動や人脈をきっかけに、県内に新たなビジネスや多様な取組が展開されている。

秋田への想いを共有する“人財”

ハブとなる県内起業家の存在

- ◆ 県内外のビジネスパーソンや地域のハブになっている起業家が県内各地に存在
- ◆ 県内外のプレイヤーとの連携や若者の活動をサポートする中で、地域発の新たな取組が生み出されている

【事例】県内外起業家の連携による取組

県内外の起業家・経営者等が参画し、新たなテクノロジーで加工した地元木材を使って共同住宅を作り、県内外の交流を生む新たな集落づくりに取り組む



秋田県出身者による活動

- ◆ 秋田への貢献意欲の高い出身者が県外に多数存在
- ◆ キャリアを活かした企画や濃密なネットワーク形成等、積極的に活動を推進

【事例】秋田スタートアップツアーの開催

秋田出身VCの企画で、県内外の起業家、VC、事業会社、商工会議所、首長等が交流し、秋田の魅力とビジネスの可能性を伝える秋田ツアーを開催



意欲ある県内若手経営者

- ◆ 特に若手経営者を中心にスタートアップや異業種との連携、新分野進出への関心が高い
- ◆ 若手・次世代経営者間のコミュニティが形成されている

【事例】県内若手経営者・後継者コミュニティ

地元金融機関が、経済の発展に寄与する人材の育成を目的に、若手経営者・後継者を対象とした経営塾を実施し、コミュニティが形成されている

あきた
未来塾

秋田で活動するスタートアップの強力なパートナーになりうる存在

まとめ – 現状と今後の方向性

本県におけるスタートアップをとりまく現状と課題に対応するため、以下の取組を進める必要がある。

現状と課題

①スタートアップを志す者は少数



- 若年層への起業家教育を充実
- スタートアップ候補者の挑戦の後押し

②スタートアップが少数かつ成長初期



- 集中支援により成長ロールモデルを創出
- 県外スタートアップを呼び込む

③支援リソース・ノウハウの不足



- 県内外の多様な支援者との連携

④秋田の強みを活かし切れていない



- 最適なビジネス資源やパートナーとマッチング

取組の方向性

各成長ステージに
応じた支援策の充実

パートナープラット
フォームの構築・運営

3. 取組の方向性

取組方針① 成長ステージに応じた支援

県内に多様なスタートアップが増え、相互に関わり合い成長していく環境を生み出すため、次の取組を重点的に推進していく。

➤ 若年層への起業家教育を充実

将来の働き方の選択肢の一つとして起業やスタートアップを認識し、将来スタートアップに挑戦する候補者を創出していくため、若年層に対する起業家精神の育成や、親を含む県全体の意識醸成に取り組む。

➤ スタートアップ候補者の挑戦を後押し

地域・社会課題の解決に関心のある学生や移住者等に対し、メンターやネットワークと出会う機会の提供、アイデアのブラッシュアップ・実践のサポートを通じて、スタートアップへの挑戦意欲の醸成を図る。

➤ 集中支援により成長ロールモデルを創出

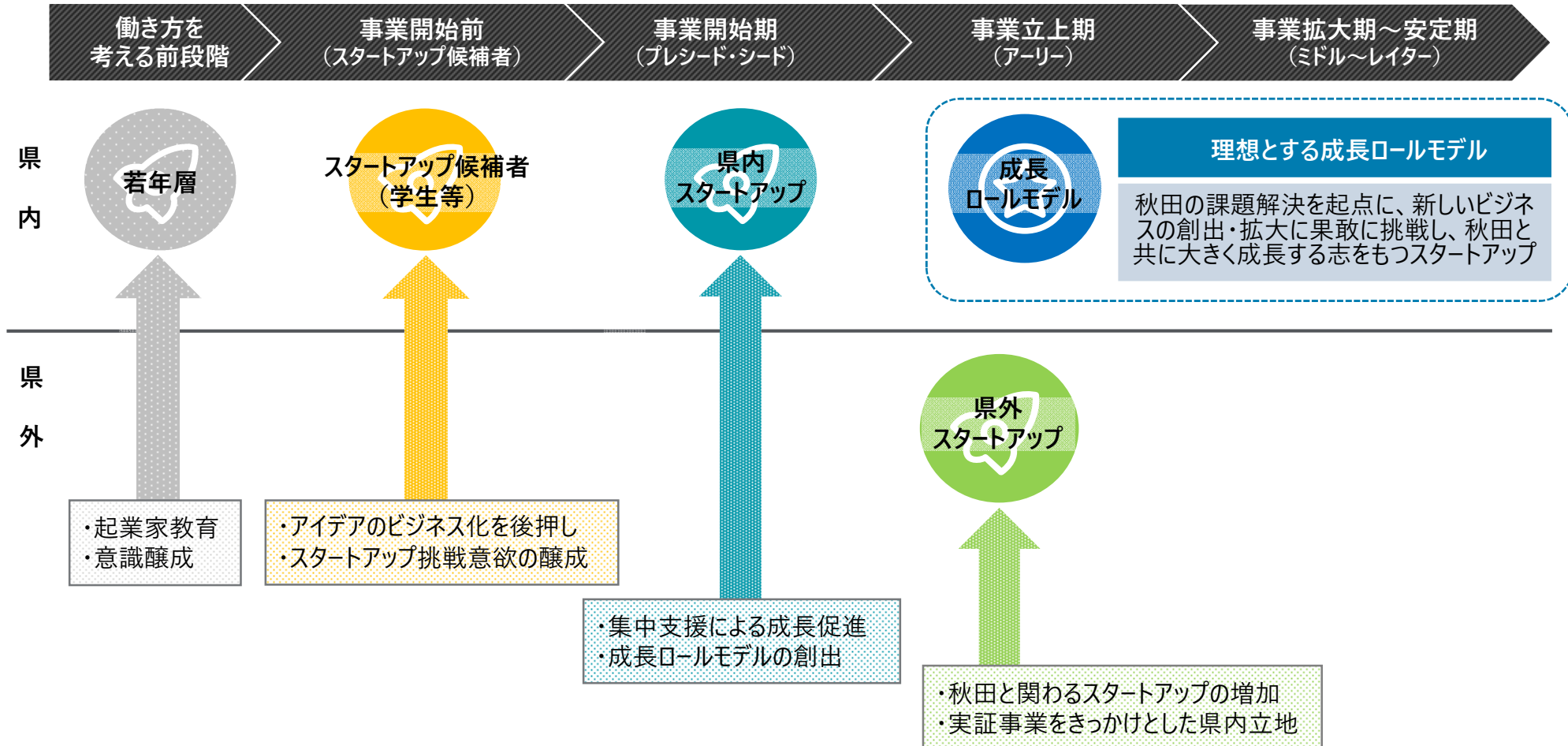
事業開始期の成長可能性の高い県内スタートアップを選定し、支援先とのマッチングや企業ブランディング支援等により、事業拡大を集中的にサポートし、成長ロールモデルを創出する。

➤ 県外スタートアップを呼び込む

プロダクト・サービスの実証段階にある県外スタートアップに対し、地域資源・連携先とのマッチング支援や実証費用補助等のサポートを実施し、事業拡大と県内立地を後押しする。

取組方針① 成長ステージに応じた支援 – 重点支援対象

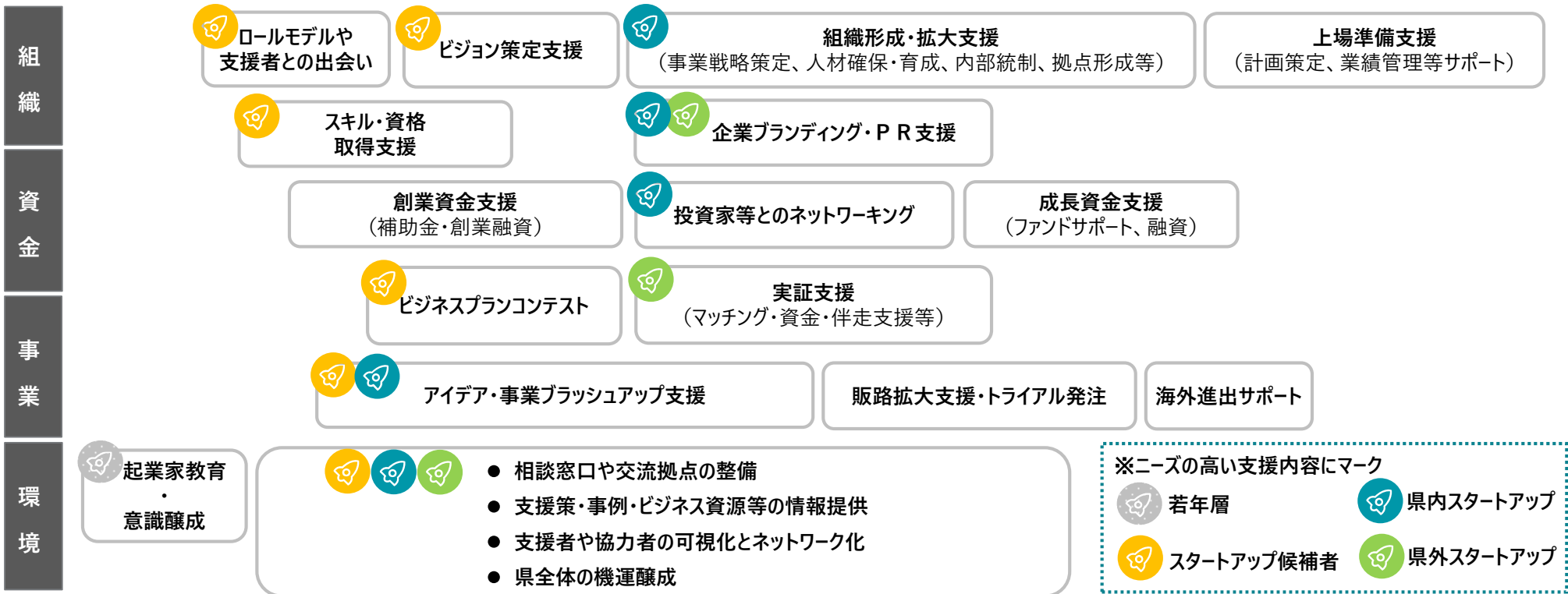
県内スタートアップ等の裾野を拡大するとともに、成長ロールモデルの創出を図るため、下記を重点支援対象とする。



取組方針① 成長ステージに応じた支援 – 具体的な支援内容

重点支援対象に対して、民間等の支援と連携しつつ、支援が不足している領域（＝ニーズが高い領域）の取組を強化する。

働き方を考える前段階	事業開始前 (スタートアップ候補者)	事業開始期 (プレシード・シード)	事業立上期 (アーリー)	事業拡大期 (ミドル)	事業安定期 (レイター)
<ul style="list-style-type: none"> ✓起業家教育 ✓意識醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ✓事業アイデアの壁打ち・相談 (挑戦の理解と応援) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓事業構想・計画策定支援 ✓先輩起業家・スタートアップとの交流機会 	<ul style="list-style-type: none"> ✓実証実験サポート ✓事業協業・連携先とのマッチング支援 	<ul style="list-style-type: none"> ✓組織強化のための人材獲得・採用 ✓海外進出サポート 	<ul style="list-style-type: none"> ✓上場を見据えた経営管理体制の構築・強化 (人事制度、内部統制等)



取組方針② パートナープラットフォームの構築・運営

スタートアップ、多様な支援者、資源・人財を結びつける土台となる「パートナープラットフォーム」を構築し、参画者の連携により、スタートアップをサポートしていく仕組みを整備する。

➤ 県内外の多様な支援者との連携

県内で先行してスタートアップ支援を行っている団体等を中核として、支援組織「パートナープラットフォーム」を構築し、県内外の多様な支援者（パートナー）の参画を促す。

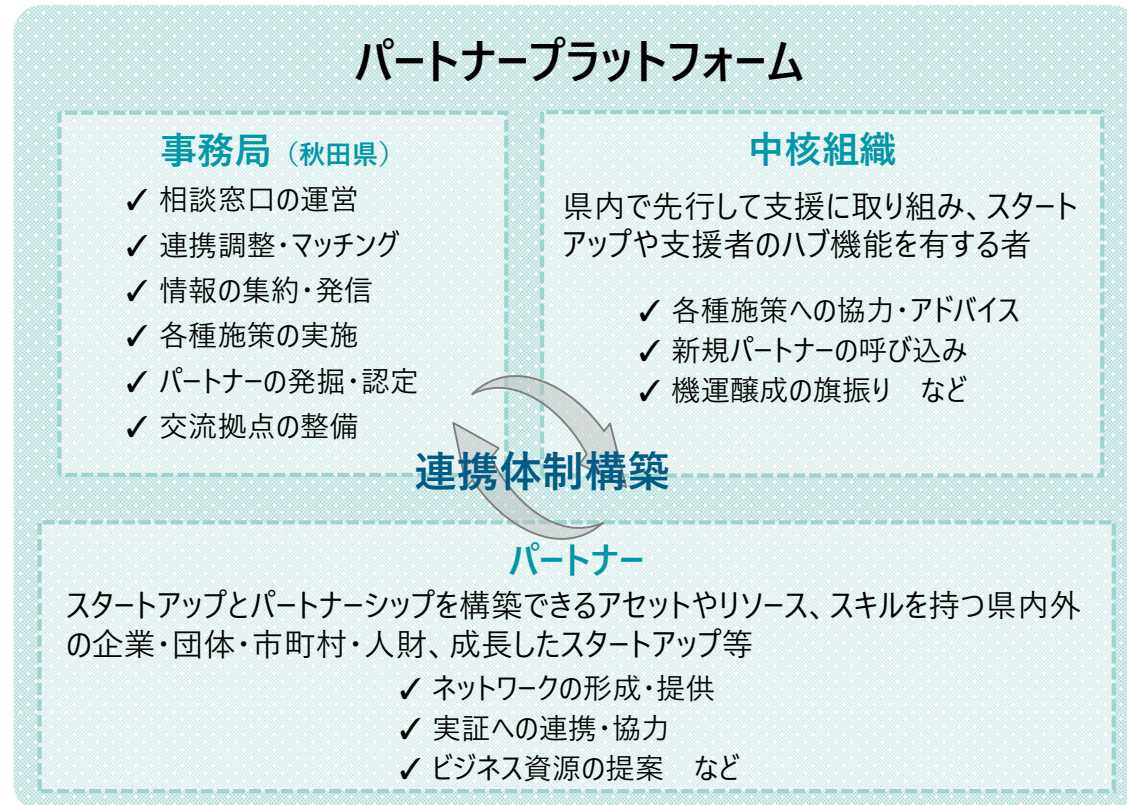
中核組織	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 県内のスタートアップ支援に先行して取り組んでいる団体等で組織し、プラットフォームの中心的な役割を担う ◆ それぞれの取組を強化するとともに、ノウハウや人脈を活かし、施策へのアドバイスやパートナーの呼び込みに協力
パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ◆ スタートアップの成長を支援できる県内外の企業・団体・自治体・人財等の参画を促すほか、新規掘り起こし・育成を進める。また、将来的に成長したスタートアップが参画する好循環を目指す ◆ スタートアップが成長する際に必要となるネットワークや、実証時のフィールド・アセットの提供、地域・業界におけるビジネス資源（地域資源・地域課題等）の提案などに協力
事務局 (秋田県)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ スタートアップからの一次的な相談窓口機能及び関係者間の連携調整・マッチング等の機能を担う

➤ 最適なビジネス資源やパートナーとのマッチング

事務局が窓口となり、スタートアップ等の支援ニーズを集約し、中核組織及びパートナーと連携調整の上、最適なビジネス資源やパートナー、支援策等とマッチングする。

取組方針② パートナープラットフォームの構築・運営－組織体制

先行して県内でスタートアップ支援を行っている団体等を中核として「パートナープラットフォーム」を組織し、スタートアップをサポートできる県内外の多様な支援者（パートナー）が参画し、連携できる組織体とする。

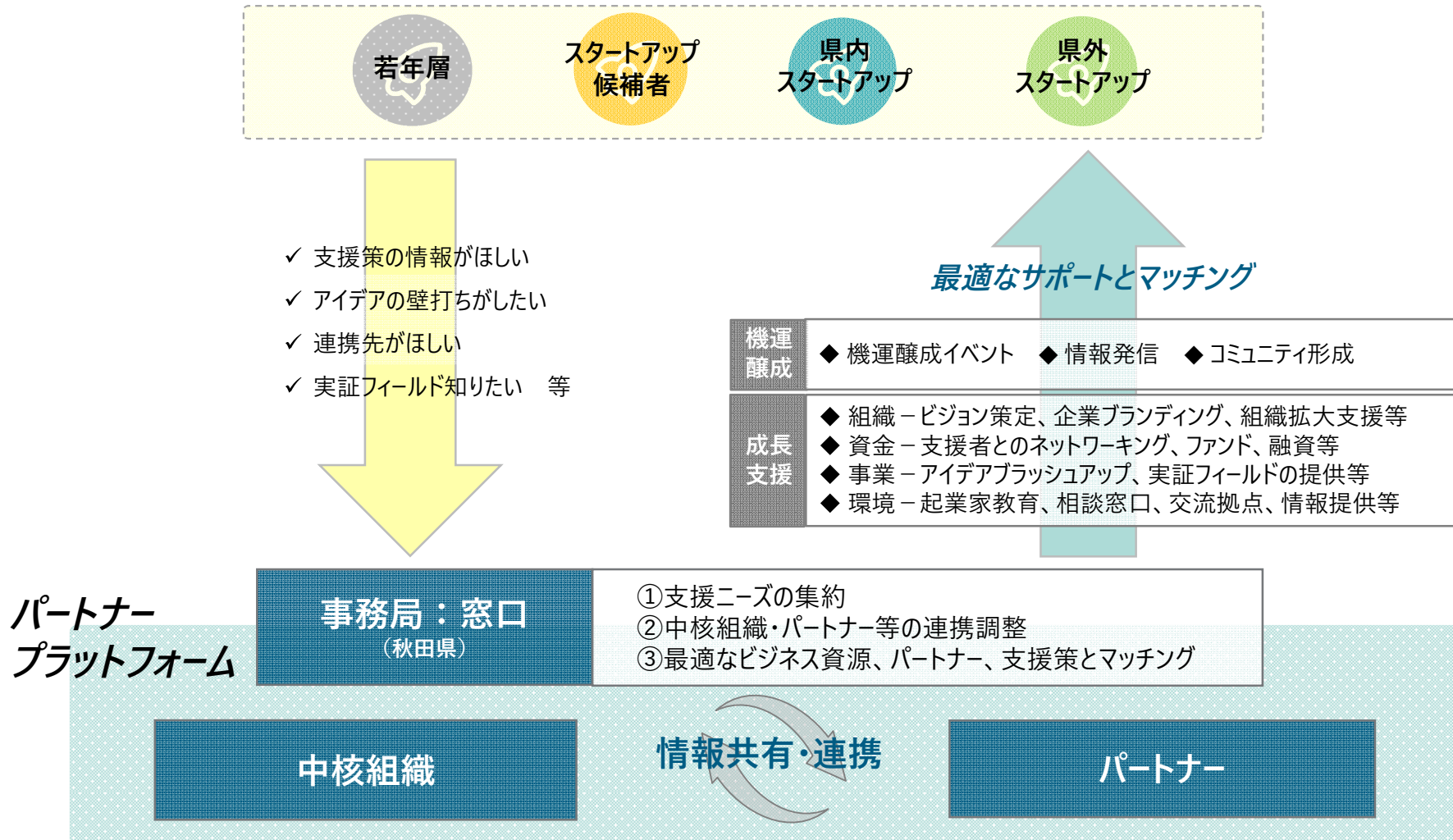


県内外からの呼び込み・育成



取組方針② パートナープラットフォームの構築・運営－運営手法

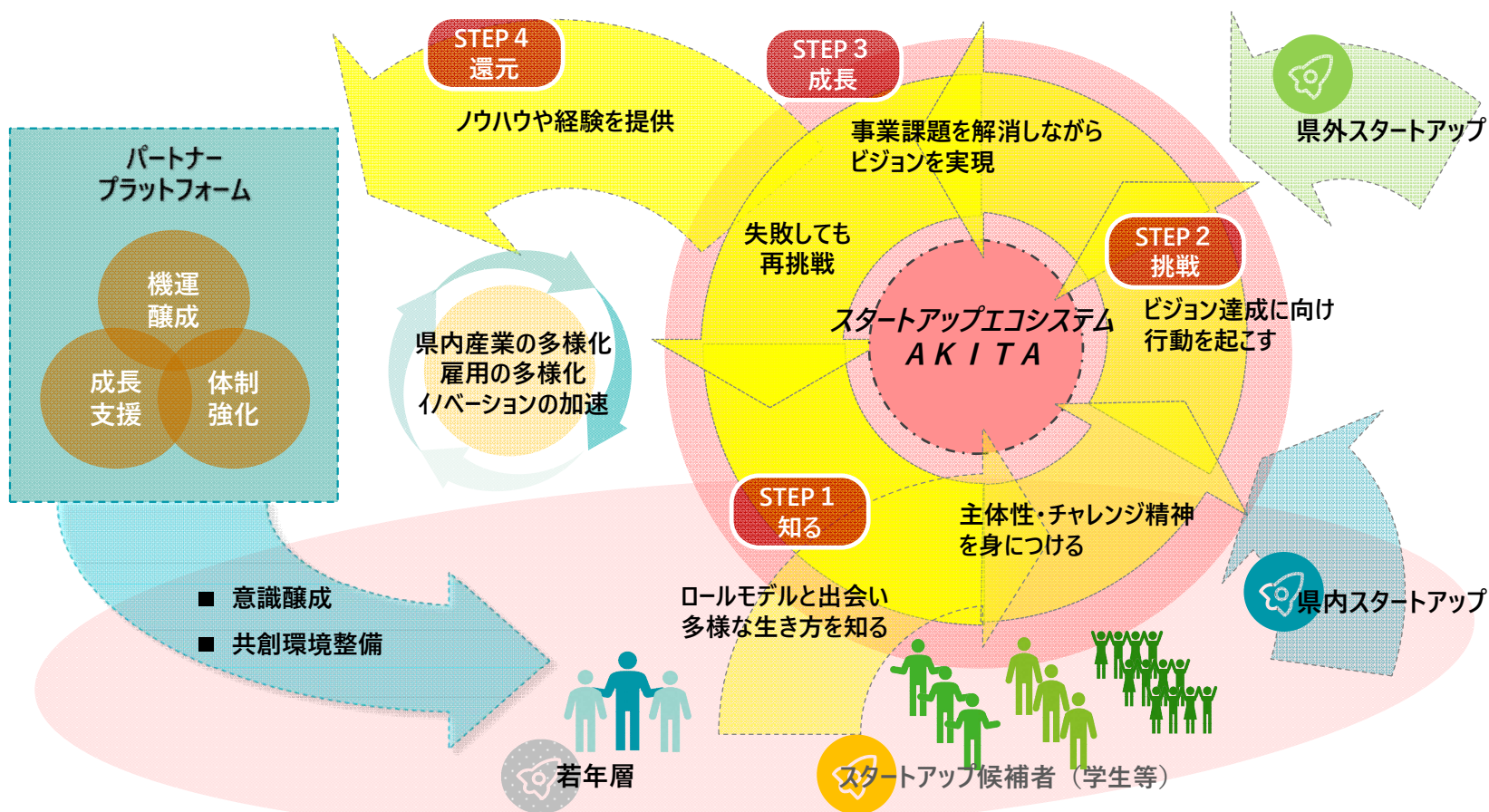
事務局が窓口となってスタートアップ等のニーズを集約し、プラットフォーム参画者の支援リソースを適宜連動させ、最適なサポートとマッチングする。



4. ロードマップと10年後の姿

スタートアップエコシステムAKITA【10年後の姿】

取組方針に基づき、体制整備と支援策を推進することにより、秋田から次々とスタートアップが立ち上がり成長していくエコシステム像「スタートアップエコシステムAKITA」の形成を目指す。



エコシステム形成に向けたアクションプラン（1～2年目：R6-R7）

人・場づくり・機運醸成

「パートナープラットフォーム」を整備し、機運醸成や将来を見据えた人材育成を進めるとともに、成長ロールモデルの創出や県外スタートアップ呼び込みのための実証モデルの確立に重点的に取り組む。

取組

機運醸成：交流イベントの開催、メディアと連携した情報発信

成長支援：教育機関と連携し小中高生向けの起業家教育を充実、候補者へのメンタリングやネットワーク形成支援、県内スタートアップの認定制度創設による集中支援、県外スタートアップの実証支援

支援体制：相談窓口の設置、パートナーの登録促進、支援機関向け勉強会・交流会の実施

目標

【若年層】

◆ 起業家教育の必要性を周囲が理解し取組が増加

【候補者】

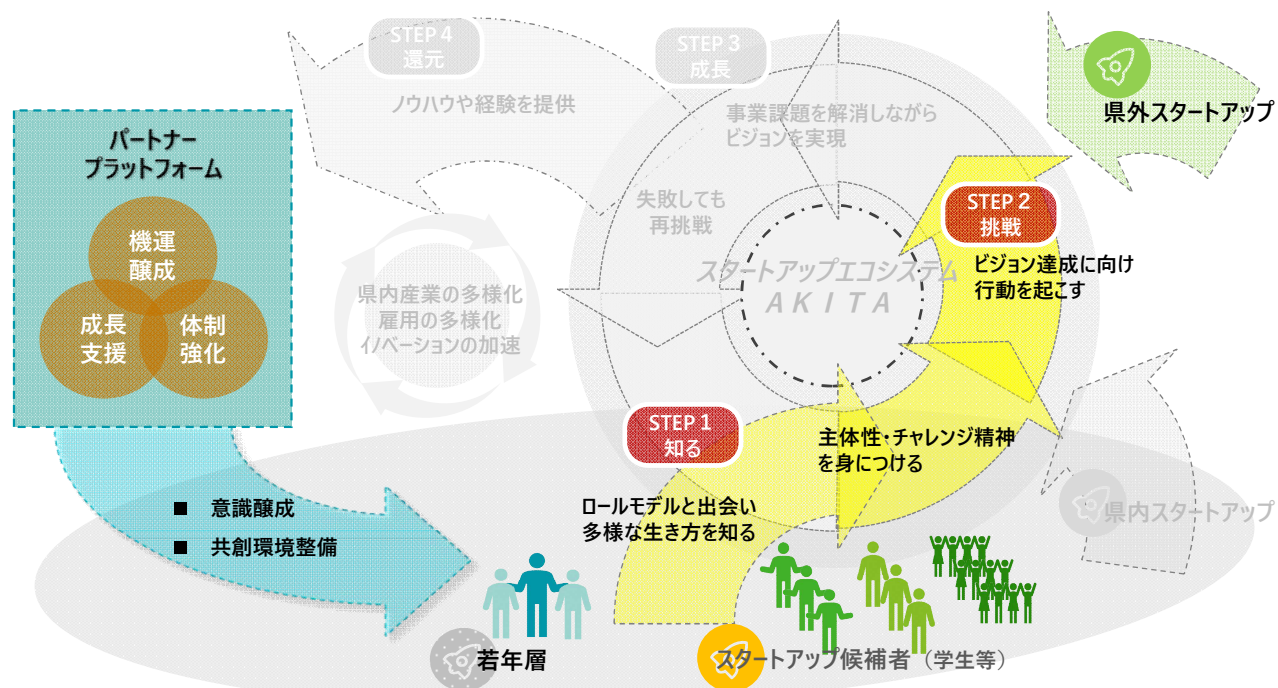
◆ 支援者等とコミュニティが形成され、アイデアのビジネス化を意識する者が増加

【県内スタートアップ】

◆ 事業成長を実現し、成長ロールモデルとして県内外に認知

【県外スタートアップ】

◆ 市町村等と連携した実証事業モデルが確立



エコシステム形成に向けたアクションプラン（3～5年目：R8-R10）

事業化・成長の加速

ロールモデルに追随する候補者の成長促進や県外スタートアップの立地促進を強力に進めるとともに、県内スタートアップの成長に対応したサポート体制を整備する。

取組

◆これまでの取組に加え、以下に取り組む

成長支援：県内スタートアップへのアクセラレーションプログラムの提供や実証事業支援、海外進出支援、県内に立地した県外スタートアップへの横展開支援

支援体制：常設の相談窓口や交流拠点等の設置を検討（インキュベーション機能強化）

目標

【若年層】

◆課題解決意欲・挑戦意欲を持った若年人材が増加

【候補者】

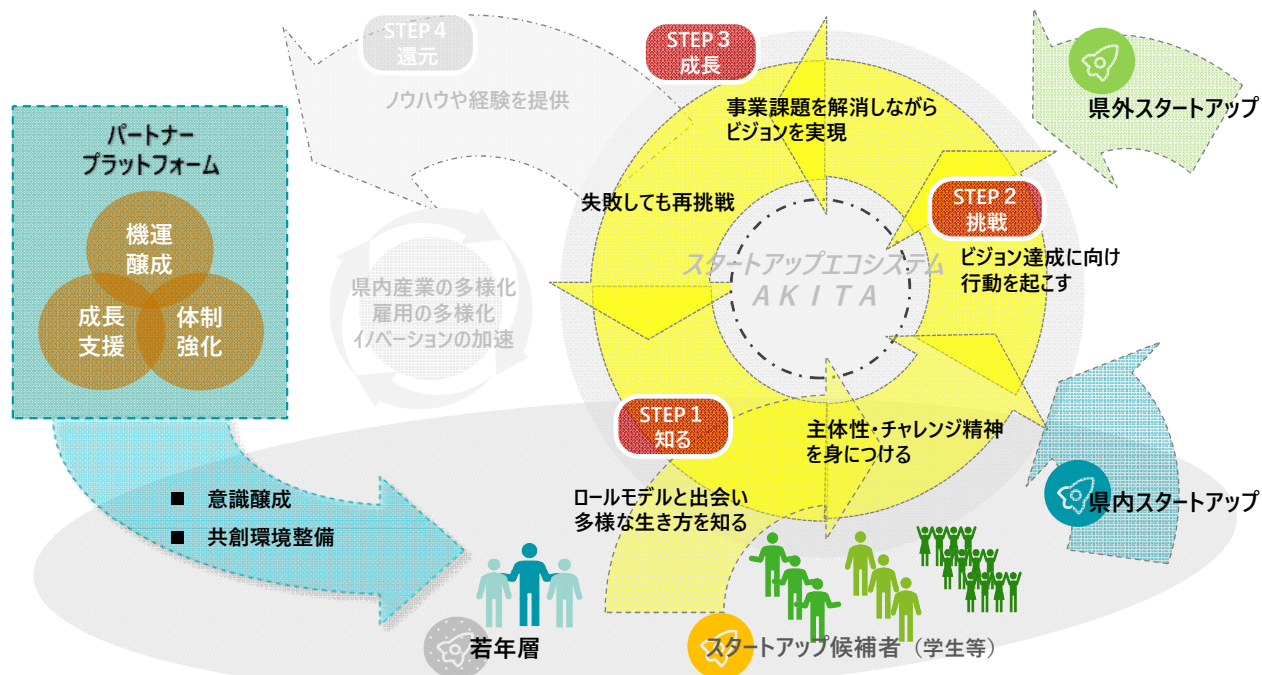
◆スタートアップを念頭にアイデアのビジネス化に挑戦する若者が増加

【県内スタートアップ】

◆成長可能性の高いスタートアップが増加。上場予備軍が一定数存在

【県外スタートアップ】

◆県外スタートアップの立地が進み、県内に実証フィールドが整備



エコシステム形成に向けたアクションプラン（6年目以降：R11-）

エコシステムの形成・発展

成長したスタートアップが支援者として「パートナープラットフォーム」に加わり、新たな事業シーズ・アイデアを生み育てるエコシステムの自走に向けて体制を強化する。

取組

◆ 過年度の取組を更新しつつ、支援拡大

成長支援：事業成長を実現したスタートアップの上場準備支援、プレイヤーの裾野拡大に向けた社会人プログラムの提供

支援体制：エコシステム拠点の形成に向けた海外都市との連携強化、実証に係る規制緩和の推進等の検討

目標

【若年層】

◆ 将来の選択肢の一つとしてスタートアップが浸透し、志す者が増える

【候補者】

◆ 若者の挑戦が、社会人や第二創業者に波及し、裾野が拡大

【県内スタートアップ】

◆ 多様な成長ステージのスタートアップが存在。新たな雇用の創出や成長スタートアップによる次世代育成がはじまる

【県外スタートアップ】

◆ 県内企業との協業でイノベーションが加速。秋田起点の課題解決ビジネスの認知拡大

